



プロモーションビデオ第2弾

今回の映像の打ち合わせが始まったのは2016年秋、当初高崎さんは7月に相模原でおきた障がい者殺傷事件に強い憤りを感じていて、事件に対する具体的なメッセージとしての映像を望んでいた。しかし具体的なメッセージを描こうとすればするほど、僕は意見の異なる人たちと同じ土俵に上がることへの違和感を感じるようになっていた。同じ土俵に上がることは同じモノサシで意見を述べることであり、「いなくなればいい」とか「いた方がいい」という直線的な論議では、ふかふかが生み出している豊かな空気感(仮にふかふか現象と呼ぶこととする)を伝えきれないと思ったのだ。もっと立体的な座標軸の中でふかふか現象を捉え映像にすることで、結果としてメッセージになるようにしたいと思った。

座標軸の参考にしたのは高崎さんが設立6年目に書いたふかふかの「ステークホルダー関係図」だった。しかし沢山の利害関係者の中には唯一高崎さん自身が入っていなかった。今回の映像でも触れてはいるが、個人としての高崎さんの想いを知ることは、ふかふか現象を理解し活かす上でとても重要だ。次回続編をつくる機会に恵まれたら、そこにフォーカスした作品を作りたいと思っている。

(PVプロボノ 映像ディレクター 信田眞宏)

第3期 演劇ワークショップの記録

ワークショップにはふかふかのお店の常連さんが何人か参加していますが、その方々にも注目して見てもらいたいです。その方々から誰かひとりに焦点を当てて撮影したいと思ったくらい変化していました。ふかふかのメンバーさんは形式的なコミュニケーション、僕たちが持っているなんとなくこういう時はこういう言葉を使った方がいいとか、そういうのがいい感じに通用しないで、思いもよらない視点・観点からのコミュニケーションで、新鮮な感じがしました。

(映像作家 吉田拓史)

◎上映会のあと、映画を手がかりに、相模原障害者殺傷事件に対して私たちにできることを話し合えたら、と思っています。優生思想云々の大きな話ではなく、私たちの身近なところで何ができるのか、といったことです。

ゲスト:宮沢あけみ(映画監督)、杉浦幹(二ツ橋大学)、吉田拓史(映像作家)